

特別礼拝について

9月17日火曜日の朝の礼拝は特別礼拝として全校で守りました。韓国の84歳のバリトン歌手であり、音楽伝道牧師のビヨン・ソング・ヨブ先生が遺愛アリーナ全体に響き渡る声で、『アメージンググレイス』と水野源三さん作詞『朝、静かに』を歌って下さいました。初秋の爽やかな朝陽に包まれた750人の生徒達は、心にしみいるような歌声に、熱心に耳を傾けていました。

ビヨン先生は1930年に韓国に生まれ、ソウル延世大学で英文学を修めたあと、ハーバード音楽大学に留学、さらに日本の国立音大で声楽を専攻し、修了後は教会音楽の指導者として活躍され、世界各地でリサイタルをしてきた方です。

今回なぜ遺愛に来ることになったかと言いますと、遺愛の卒業生との出会いからでした。その卒業生の方は、現在79歳、昭和27年に遺愛を卒業した木村陽子さんです。遺愛在学中はスポーツが得意で特にソフトボールでは全道優勝し、全国大会に出場しました。遺愛卒業後は進学し幼稚園教諭となり、遺愛幼稚園の先生を4年間しました。その後苫小牧に移り結婚をし、子育てしながら音楽教室の先生の資格を取りました。自宅でピアノを教え、苫小牧の教会のオルガニストを50年以上も務めてきました。今回はビヨン先生を遺愛に紹介してくださり、遺愛でのピアノ伴奏も引き受けて下さいました。

木村さんとビヨン先生がどうして知り合ったのかですが、昨年、木村さんが韓国のソウルで開かれたキリスト教関係の会議である東北アジア宣教協議会に参加しました。そこで木村さんは、東日本大震災の被災者のために、韓国と台湾の教会から多額の献金をいただいたことに日本の教会を代表して感謝の意を表し、お礼に何か私たちがのことができることをしたいと申し出ました。木村さんの申し出を聞いた韓国のある牧師先生が、80歳過ぎても音楽伝道の夢を持ち続けるビヨン先生を木村さんに紹介し、今回の特別礼拝が実現することになりました。ビヨン先生は「神様をたたえる音楽こそ真の安らぎと幸福であり、それを深く知っていただくために、遺愛の礼拝に奉仕できることは心から感謝です」と語っていました。



2013年
9月17日

ビヨン先生と木村さん